

子どもの貧困は見えにくい……

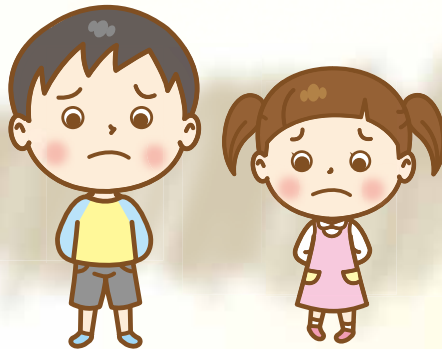
親戚付き合いも少なく、
地域住民の目も届きにくい。

子ども・家族に貧困であるという認識がないので、自分から支援を求めない。

見た目では困っているかどうか、
分からないのね……。



支援に関する情報も届きにくい
(知らない) ため、社会的に孤立しやすい。



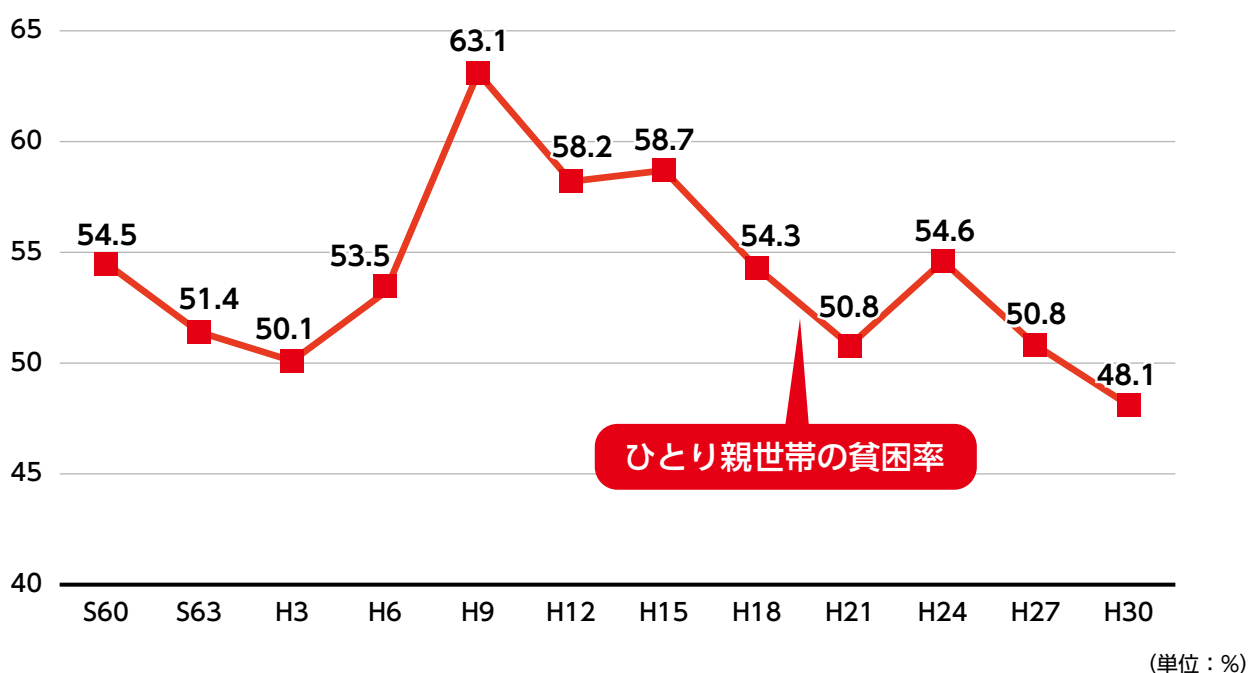
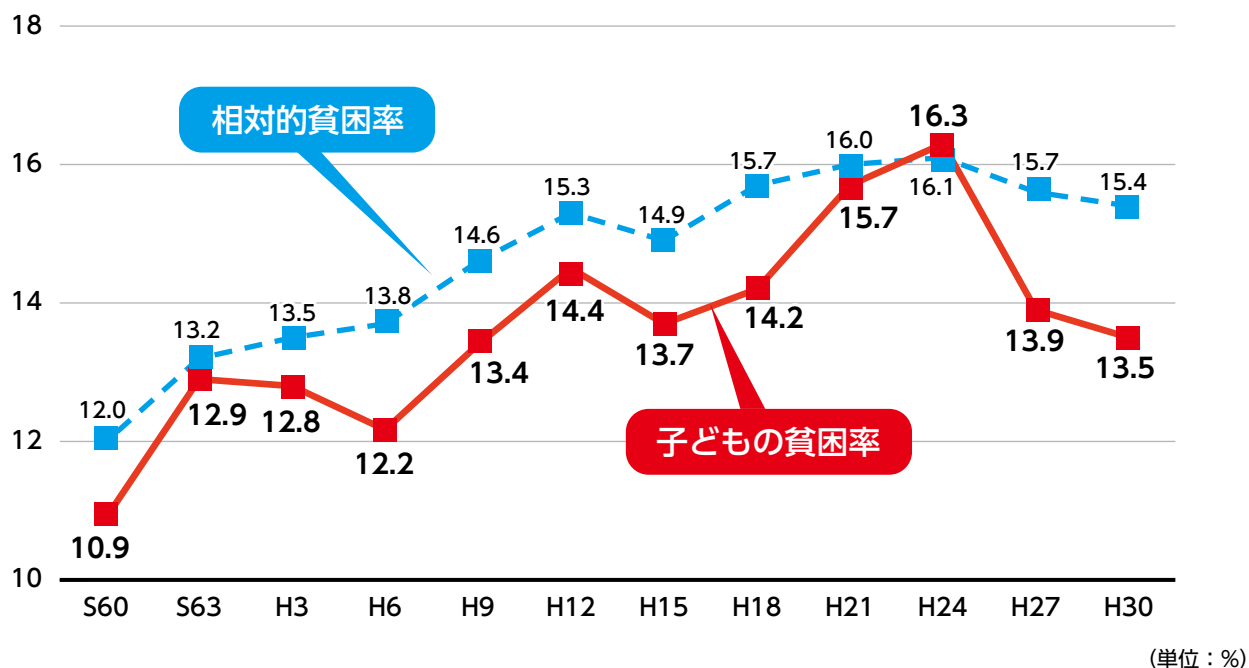
困っている自覚があっても、
周囲の目を気にして相談できない、
あるいは諦めてしまっている。

POINT

子どもたちは「困っている」というSOSを発することが少ないので、何で困っているのかは、大人側が「見よう」としなければ見えてきません。

《参考》全国の相対的貧困率

※厚生労働省：国民生活基礎調査より



《貧困に関する2つの考え方》

●絶対的貧困

生命を維持するために最低限必要な衣食住が満ち足りていない状態のこと。(発展途上国や戦後の日本など)

●相対的貧困

その地域や社会において「普通」とされる生活を享受することができない状態のこと。